

奨励賞



設計者

古森弘一

福岡県建築士会、(株)古森弘一建築設計事務所

教育施設

福岡県北九州市戸畑区仙水町

九州工業大学製図室

構造・階数

鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
地上2階建て

敷地面積

260,028.56㎡

建築面積

218.5㎡

延床面積

77.81㎡

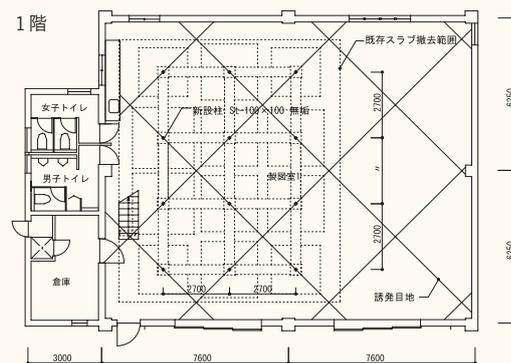
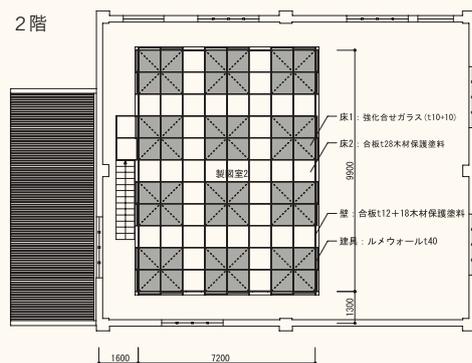
竣工

平成 25 年 2 月 27 日



A

- A 製図室正面全景。1階はブレースのない開放的な空間
 - B スチールの柱脚により、宙に浮いた箱のような入れ子状の製図室が生まれた
 - C 2階製図室を支える柱頭と柱脚の納まり。スチールのユニットは工場で作製
 - D 強化合わせガラスを用いた2階製図室の床
 - E 建具を開放することにより、上下階が一体となった利用が可能
- 写真撮影…KYOKO OMORI



平面図

選評

既存ボイラー室内部に鉄骨構造によって設計製図室を増築したリノベーションである。

九州工業大学に建築学コースが新たに設立されたのは2010年である。既存キャンパス内に新校舎を建設することが困難なため、1974年に建設され、現在は使用されていないボイラー室を利用して、その内部に設計製図室を建設することになった。

既存ボイラー室だけでは面積が足りないため、高い天井高を利用して内部に完全に自立した製図室を入れ子状に建てている。2階製図室の床を支えているのは、無垢の鋼棒の角柱頂部に、鋼板を加工した方杖状の柱頭を対角線に取り付けたマッシュルーム構造である。これを2.7mグリッド上に立て、柱脚を基礎に埋め込み、2階床を90cmグリッドの鋼板溶接構造として一

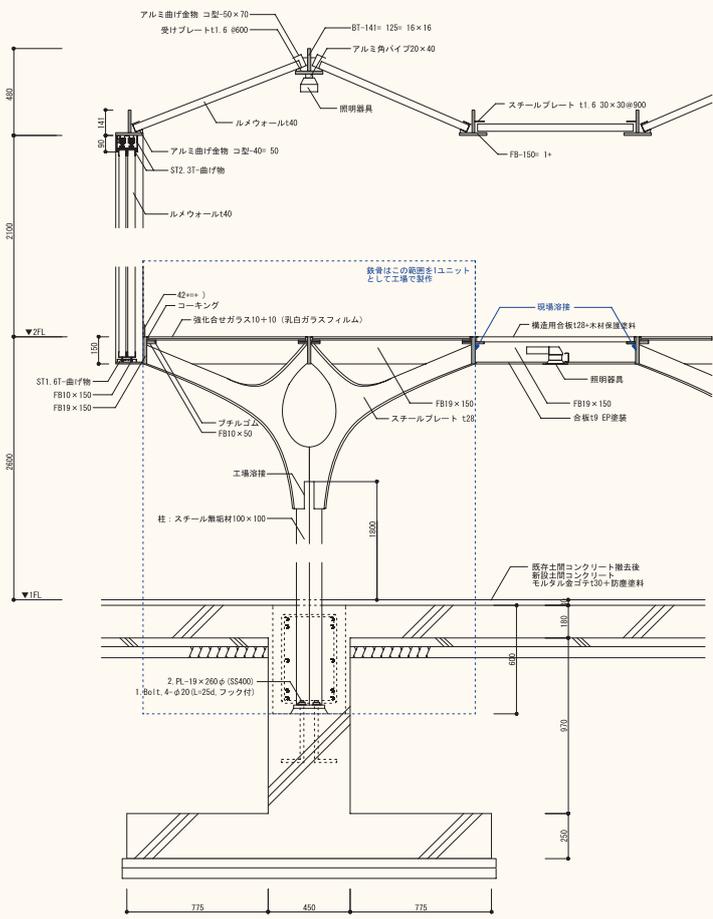
種のラーメン構造を構成している。これによって1階はブレースのない開放的な空間が確保された。2階床は90cm角の乳白フィルムを張った強化合わせガラスと構造用合板の床パネルを格子に嵌め込むことで、透明感と軽快感を演出している。さらに2階製図室の外周にアングル材の柱を建て、乳白色のツインポリカーボネートの建具を嵌め込み、天井は折版状の軽い構造として、宙に浮いた箱のような製図室を生み出している。

19世紀の初期鉄骨造を連想させる、きわめて精巧な構造システムとディテールによる手づくり感に溢れた空間だが、現代の鉄骨造にしてはやや装飾的でスケールも小さ過ぎるため、木構造的な表現にとどまっている点が惜まれる。

(難波和彦)



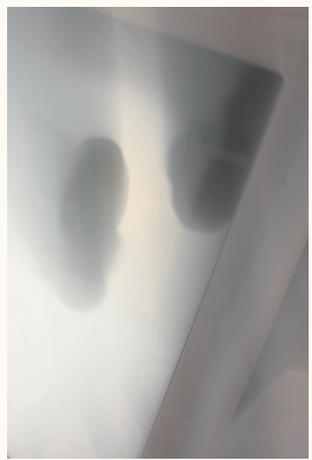
B



断面詳細図



C



D



E